

平成27年度 入学試験問題

国 語

(50分・100点)

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

注意事項

- ① 監督の指示があるまで中を開けないこと。
- ② 解答は、全て「解答用紙」に記入すること。
※ 字数制限がある問題は、句読点・記号も字数に含む。
- ③ 質問（印刷不明のところ）がある、鉛筆などを落とした、トイレに行きたくなった、気持ちの悪くなった、などの場合は静かに手をあげること。
- ④ 携帯電話は、音が出ないように電源を切るかバッテリーをはずし、カバンにしまっておくこと。

名古屋経済大学市邨中学校

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

子どものことばの創造性に大人はいつも驚かされますがジヤクテン^アもあります。また朝日新聞の「あのね」欄からの例です。

姉の書き初めを「味があるねえ」とお母さんがほめたら、

【A】

ビターチョコを食べたお兄ちゃんが「大人の味がする」と言ったら、

「大人を食べたことあるの？」

小さい子どもはことばを文字通りの意味のみで理解し、それから外れた比喩的な意味は理解しないことが実はよくあります。「味がある」は文字通り、舐めてわかる「味」と思い、「〇〇の味がする」はジツサ^イいに舐めてその味がした、と思つたわけです。「味がある」や「大人の味」で使われる「味」^①の比喩の意味がわからなくても、自分が言っていることはおかしいかも、と気がつきそうなものだと思いますよね。

でも、四歳くらいだと、自分の言っていることは今の状況^{じょうきょう}に合わない、もしかしたら、自分の知っていた意味ではない意味でそのことばが使われているかもしれない、ということに気づかず、とんちんかんなことをよく言います。

「ブロッコリーを食べると、お肌^{はだ}も髪^{かみ}もツルツルになるよ」

「毛^ぬが抜けちゃうの？」

これも子どもがことばを自分で知っている意味でむりやり考えてしまいい、とんちんかんな受け答えをしている例です。この子は【B】「毛がない」という意味でしか理解しておらず、「すべるように滑^{なめ}るか」という意味にとることができなかつたのです。

三歳の女の子が、おかあさんが漬^{つけ}け物のぬか床^どをかき回している時に「たがやしているの？」と言つたエピソード^{しやうかい}を紹介しましたね。「耕す」とはどのような意味でしょう？ 『広辞苑^{こうじえん}』では「作物を植える準備として、田畑を掘り返す」とあります。田畑を耕す代わりにぬか床を耕す。ぬか漬^{つけ}けをおいしく漬ける準備のためにぬか床をひっくり返すのですから、確かに「耕す」というのはぴつたりです。詩に使つてもよいくらい素敵^{すてき}な表現だと思いませんか？

ちなみに大人は「耕す」を田畑を耕すことを表す以外にも使っているでしょうか？

もちろん使っています。例えば、次のように。

素質とは耳にした事柄^{ことごと}をたやすくつかむ能力であり、修練とはもつて生まれた才能を耕し尽くすことであり、学習とは賞賛^{あたい}に値する生き方をしながら、日々の行いを学知と結合させることを意味する。

〔日本人はいかにして生きるべきか〕阿部謹也著

この二つの表現を比べてみると、一見、子どもは大人の詩人や小説家と同じことをしているように見えなくもありません。しかし、子ども^②の創造性とプロの文筆家の創造性とは本質的に異なるところがあります。それは、子どもはおもしろい表現、詩的な表現をするためでなく、適切なことばを知らないで新しい使い方を考え出すというところ^②です。それが、たまたま、大人の耳には詩的で素敵^{すてき}に聞こえるのです。ぬか床を「耕す」と言つた女の子も、「耕す」という語を持つ「将来の準備をする」という部分を理解してこのことばを使ったわけではなく、土を掘り返す^{うが}ドウサとぬか床をかき混ぜるドウサが「似ている」と思つて使つたのではないかと思えます。

それに対して、(プロの文筆家などの) 大人のことばの熟練者は、慣習的なことばがあることを知った上で、あえて普通には言わない表現をします。その時に陳腐ちんぷにならず、単なる間違いや、ヘンな表現にもせず、読者をハッとさせ、新鮮しんせんな使い方だなぁと思わせませす。ただし、単なる修辞しゅうじの技巧ぎこうとして普通でない表現を使うと、わざとらしくなり、読む人の心を打ちません。子どもの感性はそのままに、たくさんの言葉のレパートリーを持ち、一つ一つの言葉の意味を熟知した上で新しい表現を紡つむぎ出す。それが熟達した表現者でしょう。

ノーベル文学賞を受賞した小説家、【C】は、

秋風あきかぜに吹き起こされると、落ち葉おちばどもは一斉いっせいに立ち上がって走り出し、ひとところに集まったと思ううちに、旋風せんふうにつれて舞い上がった。【落葉】

という表現をしています。「立ち上がる」「D」は日常で普通に使われる動詞ですが、このような使い方をすると、落ち葉おちばが生き物のように「立ち上がる」一瞬あざが鮮やかに目に浮かびますね。

語彙ごいを増やし、その中の一つ一つの言葉を深く理解するようになることは、ことばの発達で大事なことです。しかし、そのカテイエで、言語の決まりや慣習に慣れてしまい、創造性を失ってしまうのはあまりにももったいないことです。そのようにならないように、ことばに対するカンオシンオを持ち続け、ことばの意味の探求を続けて、感性を磨みがいていきましょう。

(今井むつみ『ことばの発達の謎を解く』より)

※ 陳腐：ありふれていて、つまらないこと

※ 修辞：言葉をたくみに用いて美しく効果的に表現すること。

※ 語彙：ある言語で用いられる語の全体。

問一 〰〰線部アからオのカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 空らん【A】に入る最も適切な言葉を次のアからエの中から選び、記号で答えなさい。

ア どのこと？ イ どこなめたの？

ウ どこがすばらしいの？ エ どこで見たの？

問三 〰線部①『味』の比喩の意味」とありますが、この場合の意味として最も適切なものを次のアからエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 物事のおもむき・おもしろみ イ 体験によって得た知識

ウ 手ぎわがよいこと エ 舌のうまい・まずいなどの感じ

問四 空らん【B】に入る適語を文中からぬき出して答えなさい。

問五 〰線部②「子どもの創造性とプロの文筆家の創造性とは本質的に異なるところがあります」とありますが、「子ども」と「プロの文筆家」が新しいことばを創る理由を、文中の言葉を使ってそれぞれ十字以上二十字以内でまとめなさい。

問六 筆者はどのような人を「ことばの熟練者」だと考えていますか。その考えを最もよく表した一文を文中からぬき出し、初めと終わりの三字を書きなさい。ただし、句点は除きます。

問七 空らん【C】には、『伊豆の踊子』の作者名が入ります。最

も適切なものを次のアからエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 紫式部 イ 夏目漱石 ウ 村上春樹 エ 川端康成

問八 空らん【D】に入る言葉を答えなさい。

問九 ——線部③「落ち葉が生き物のように」とありますが、このような表現技法を何と言いますか。

問十 本文の内容と合っているものとして最も適切なものを次のアからエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 子どものことは大人のことばより詩的で素敵である。

イ 文章で慣習的なことばを多く使うとわざとらしくなる。

ウ 子どもはことばを文字通りの意味で理解することがよくある。

エ 言語の決まりや慣習に慣れることこそが大事なことである。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

もう出かけなければいけない時間なのに健児の姿が見えないと思つたら、また庭に遊びに出ていました。睡蓮鉢や古い甕にメダカが孵化しているのがおもしろくておもしろくて仕方がないようでした。

「学校に遅れるよ」と呼びかけると、しゃがんだ姿のまま振り返りましたが、慌てたのでしよう。手に持っていた腕の中身を自分にぶちまけました。睡蓮鉢をかき混ぜていた木の椀です。

洗いたてを着せたのに、シャツにもズボンにも、アオミドロの混じった水がかかりました。

健児はとろとろ私のほうにやってきました。

「せっかく、きれいなを着せてあげたのに」

下を向いたまま、健児は返事をしませんでした。

「ほんまに、あんたは！」

健児はシャツの裾を引っ張って、情けなさそうな顔をしました。ズボンはどろどろでした。

手ぬぐいでさつとぬぐってから、私は健児の尻を叩いて急かしました。自分も勤勞奉仕に遅れそうで、気が急いでいたのです。

「今日はもう、これで行きんさい。間に合わん」

健児は上がりかまちに置いてあった鞆を斜めに掛けると、黙って出ていきました。曲がり角で一度振り返ったようでしたが、私はそちらを見ませんでした。まだ腹を立てていたのです。「気をつけて」とも「行ってらっしゃい」とも言わなかったような気がします。それとも「行ってらっしゃい」くらいは言ったのだろうか……思い出せません。

服を汚したことなど、たいしたことではなかったのに。

「しようがないねえ、健児は。早う、行っておいで」くらいのことがどうして言えなかったのでしょうか。(中略)

ピカが落ちたのは、その朝まもなくのことでした。キユウゴシヨに駆けつけたときには、健児はもう命がありませんでした。焼けただれた体、ばんばんに膨らんだ顔。私はどうしてそれが健児だとは信じられませんでした。しかし、わずかに焼け残ったシャツには【A】で汚した痕があつたのです。

一年が過ぎたころから、私は何度もユメを見るようになりました。息子が帰ってくるユメです。

あの亡骸は、ほんとうに健児だったのだろうか。【A】で汚した痕と見たのはただの汚れだったのではないだろうか。

シャツのほかには、穴の空いたズックも斜めに掛けた鞆も、何も、見つからなかった。「これが健児くんです」と教えてくれた先生も死んでしまった。

あれは、ほんとうに健児だったのだろうか。

恐ろしい疑いと切ない【B】とが、心から去らなくなったのです。

健児はもしかしたら生きているかもしれない、生きのびてどこかで暮らしているのかもしれない。もしや川縁のバラックに身を寄せ合う原爆孤児たちのなかにはいるのではないか。ピカのせいで、自分の帰る家やこの母を忘れてしまったのではないか。

そう思いつくと、いても立ってもいられなくなり、気がつけば、いつも川辺のスラムあたりにいたのでした。

そうして、暑い暑い夏の日に行き倒れて、中村さんのお世話になったのです。ろくにお礼も言えませんでした。申し訳のないことでした。ふぬけみたいになっていた私は、頭も口も回らなかったのです。生きる気力もとつくになくしていました。

だけど、診療所の先生が言われた通りでした。

「生かさされたなら、生きんといけん。どんとに（どんなに）つろうても、お迎えが来るまでは生きんといけんのじゃ」

その言葉を自分に何度も言い聞かせて、仕立物で食べていくことにしました。それでも寂しくて寂しくて、たまりませんでした。やがて涙も出なくなり、毎日をただぼんやりとやり過ごしました。泣くこともできないほど、自分が空っぽになったのだと感じました。

そんなとき、ある新聞に投稿されている短歌が目にとまったのです。「こどもの日」のころだったと思います。

〈半ズボン汚し帰りし幼な子を叱りいたりき戦死せしかな〉

小山ひとみさんという方の歌でした。

② この歌を読んだとき、我知らず涙がこぼれました。新聞にぼたぼた落ちて広がったしみに自分で驚いたのを覚えています。

幼い息子は戻ってこず、南方で戦っていたらしい夫はどこで死んだかもわからぬまま、紙切れ一枚と空っぽの白木の箱が届きました。私はこの世にひとりぼっちで残されたのです。

あの日からずっと一人で、話をする相手もなく暮らしてきた自分。仕立物で何とか食べてはいるけれど、なんの希望もなく暮らしている自分。

ここに同じように二度と帰らぬ息子を思っている人がいる。その日から私は歌壇の載る日の新聞を心待ちにするようになりました。小山ひとみさんの歌は、ほとんど毎週のように選ばれて載っていました。その歌からわかるのは、この方も私と同じようにひとりぼっちであること、行商で生活の糧を得ておられること、そして、亡くなった息子さんの面影をずっと心に抱いて暮らしておられるということでした。

帳面に、私は小山さんの短歌を写しとっていききました。寂しさで息をするのもつらいような気がするのですがありませんが、そんなときに帳面を開いて読むと、きつと心が慰められたのです。

〈しんしんと雪降る夜なり戦地より子の魂ひとり寝る窓をたたく〉
〈はてしなく青澄める空戦死せし子と吾を結ぶ永久の色かも〉

きつとこの世の中には、私や小山さんのような母親が数えきれないくらいいて、それはたぶん、テキダの味方だのの区別はなくて、アメリカでも中国でも韓国でも欧州でも、私と同じように毎日毎日を息を継ぐようにして暮らしている母親たちがいるに違いない。数えきれないほどあるに違いない。

私は無学で無知な女に過ぎないが、今もこの世界のどこかで戦いが続いていること、今このときも大切な子どもを奪われている母親がいることくらいはわかる……

あの晩、私が【C】を見ていたのは、そんな母親たちの上に、この【C】は等しく広がっているのだと思っただけです。(中略)そして、もしもあの朝に戻れたら、なんと言うだろう。

追いかけていつて健児をくすぐってやり、「ほんまにいけん子じゃねえ。もう、こらえられんよ(ゆるしてあげられないよ)」といっしょに笑うだろうか。それとも「さあ、早う行ってお帰り」とお尻でも叩いて送り出すだろうか。「きつう、怒ってごめんよ……気いつけて行っておいで」とでも言うだろうか。

小山さんの歌が私の心に突き刺さったのは、「生きていてさえくれれば、それだけでよかったのに」という母親の悔いがあの歌、半ズボンの歌から聞こえてきたからです。

(朽木洋『光のうつしえ 広島 ヒロシマ 広島』より)

問一 〰〰線部アからオについて、漢字はその読み方をひらがなで、

カタカナは漢字に直して答えなさい。

問二 この文章から読み取れる日本の歴史的なできごとを答えなさい。

問三 ——線部①「とろとろ」とは健児のどのような気持ちを表していますか、説明しなさい。

問四 空らん【A】に当てはまる言葉を文中からぬき出して答えなさい。

問五 空らん【B】に当てはまる言葉として最も適切なものを次のアからエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 悲しみ イ 希望 ウ 怒り エ 喜び

問六 ——線部②「この歌を読んだとき、我知らず涙がこぼれました」とありますが、「私」が涙をこぼしたのはなぜですか。それを説明した次の文章の空らんに入る言葉を、文中からぬき出しなさい。ただし1は八字で、2は五字で抜き出すこと。

◎私と同じように「1」を思いながら「2」を抱えて生きている人がいると感じたから。

問七 ——線部③「新聞にぼたぼた落ちて広がったしみに自分で驚いた」とありますが、なぜ驚いたのですか。これより前の本文を参考にして説明しなさい。

問八 ——線部④「息を継ぐようにして」とありますが、それはどのような様子のことですか。最も適切なものを次のアからエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 貧しさに日々たえしのぶように暮らす様子

イ 悔しさに息をするのも忘れるほどの思いで暮らす様子

ウ 生活の苦しさ、つらさから逃れるように暮らす様子

エ 寂しさに息をするのもやつの思いで暮らす様子

問九 空らん【C】に当てはまる言葉を短歌中からぬき出して答

えなさい。